

令和 7 年度
自己点検・評価書

佐賀大学
アドミッションセンター

I . アドミッションセンターの目的と概要	3
---------------------------------	---

II . 領域別評価（組織運営の領域）

観 点①	4
観 点②	6

III 令和 7 年度アドミッションセンター報告書（添付資料）

I アドミッションセンターの目的と概要

佐賀大学アドミッションセンター（以下、「センター」と略記）は、センター規則（平成 19 年 9 月 19 日制定）に基づき同年 10 月 1 日に設置された。センター長，専任教員（1 名）及びアドミッション・オフィサー（1 名）で構成される。センターの目的と業務内容は以下の通りである。

【目的】

センターは，入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，国立大学法人佐賀大学（以下「本学」という。）の教育研究の充実発展に寄与することを目的とする。

【業務】

1. 入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画，立案等に関すること
3. 高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
4. 入学前教育の企画，立案等に関すること
5. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
6. その他入学者選抜に関すること

（国立大学法人佐賀大学アドミッションセンター規則より抜粋）

センターで実施した調査・研究及び活動記録は，年度末に「アドミッションセンター報告書」にまとめられる。本自己点検・評価書では，「令和 7 年度アドミッションセンター報告書」（添付資料）を根拠資料とし，点検及び評価を行う。以下，同報告書は，「報告書」と略記する。

Ⅱ 領域別評価（組織運営の領域）

【観点①】 アドミッションセンターの業務が十分に遂行されているか。

観点①-1 入学者選抜の制度，方法等の設計に関する支援が十分に遂行されているか。

（観点に係る状況）

■ 学部入試の改善提案

経済学部，医学部看護学科の入試に関して改善案を提案し，制度見直しのための支援を行い，経済学部は令和 9 年度入試，看護学科は令和 10 年度入試より制度変更を行うことを予告した。

■ 過去問利用宣言の学内利用ルールの提案

「入試過去問題活用宣言」に加入したものの，本学においてどのように過去問を活用するのか方針が定まっていなかったため，入試安全管理委員会の提言に基づき，「佐賀大学における入試過去問題活用に関する取扱要項」を作成し，過去問題を利用する場合における取扱いを定めた。

■ 個別試験「数学」の出題範囲追加

出題ミス対策の一環として，数学 A の出題範囲について「図形の性質」「場合の数と確率」及び「数学と人間の活動（整数の性質に関する部分）」という表記の提案を行った。令和 9 年度入試より実施予定である。

■ CBT の連携事業

CBT の次なる展開として，大学入試センター，電気通信大学，神田外語大学，佐賀大学で「大学入学者選抜に関する CBT 活用連携」の協定を締結し，大学入試における CBT 活用の在り方について情報共有及び普及活動を実施した。参考：<https://www.cbt.dnc.ac.jp/collab/>

■ 大学入試センターとの共同検証事業

大学入試センターと共同で，共通試験（大学入学共通テスト，大学入試センター試験）の妥当性を検討するための大学入学後の学修状況と共通試験との関連を調べる追跡調査を実施した。

■ 文部科学省委託事業の受託

令和 7 年度文部科学省『大学入学者選抜改革推進委託事業（生成 AI 等の活用）』を受託した。本事業では，大学入学者選抜業務における生成 AI の活用可能性と範囲を明らかにするとともに，各大学が生成 AI を活用する際の効果をシミュレーションする。また，生成 AI と教職員の適切な役割分担，機密性の高い情報を取り扱うためのセキュリティ対策を含めたガイドラインを策定する予定である（事業期間は令和 8 年度までの 2 年間）

(分析結果とその根拠)

アドミッションセンターから学部（及び学環）への提案を行っており、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援を積極的に行っている。また、大学入学者選抜に関するC B T活用連携や大学入試センターとの共同検証など、他機関や他部署との連携も図られ本センターの機能強化が確認できる。さらに、文部科学省の『大学入学者選抜改革推進委託事業（生成 AI 等の活用）』の受託は、本学に留まらない我が国大学入試の在り方に寄与できる取り組みといえる。この事業を確実に実施し、成果を上げることが令和8年度までの課題である。

以上のことから、入学者選抜の制度、方法等の設計に関する支援は十分に遂行していると判断できる。

観点①-2 入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されているか。

(観点到に係る状況)

- 各種説明会等の実施（「報告書」pp.183-195）
 - 受験産業等が主催する進学説明会
 - 高校や予備校等で実施する大学説明会
 - 高校からの大学訪問において実施する説明会
 - 九州地区国立大学合同説明会
 - 高校教員対象の入試説明会
- オープンキャンパスの企画・実施
- 佐賀大学案内冊子の編集
- 入試直前説明会
- ジョイントセミナーの管理・運営
- 継続・育成型の高大連携カリキュラムの開発・実施
- SNS による情報発信

(分析結果とその根拠)

高校生、保護者、高校教員等を対象とした積極的な対面形式の説明会の実施だけでなく、オープンキャンパスの内容の充実化を図られている。一方、高大連携活動では、ジョイントセミナーとともに、5つのとびらプロジェクトが着実に実施されており、佐賀大学の特色になっている。また、新たに採用したアドミッション・オフィサーにより、新たな取り組みとして SNS を活用した情報発信などが行われ、入試広報の強化が図られている。

以上のことから、入試広報や高大連携活動に関する業務が十分に遂行されていると判断できる。

観点①-3 入学者選抜に関する調査研究に関する業務が遂行されているか。

(観点に係る状況)

令和7年度は、以下の調査研究を行った（「報告書」を参照）。

- ① 令和7年度一般選抜における志願者動向分析
- ② 令和7年度一般選抜結果の検証
- ③ 令和7年度学部新入生アンケート調査実施・分析
- ④ 令和3年度入学者の追跡調査
- ⑤ 令和7年度オープンキャンパス参加者アンケート調査実施・分析
- ⑥ 令和7年度ジョイントセミナーに関するアンケート調査実施・分析
- ⑦ 令和7年度入学前学習に関するアンケート調査分析

(分析結果とその根拠)

志願者動向やアンケート調査の分析及び入試データ分析の蓄積とともに、各学部から個別に依頼のあった検証なども精力的に行っている。

以上のことから入学者選抜に関する調査研究の業務が十分に遂行できていると判断できる。

【観点②】 センターの組織運営が十分に行われているか。

(観点に係る状況)

運営委員会は、「(1) センターの管理運営の基本方針に関する事項」「(2) センターの教員の人事に関する事項」「(3) センターの予算及び決算に関する事項」「(4) 第14条に定める企画委員会が企画・立案し実施する事業等に関する事項」「(5) その他センターの管理運営に関する重要事項」に限定し、入学者選抜方法に関するもの、広報、高大接続、高大連携に関するものは各専門委員会で扱っている。令和7年度は、運営委員会が7回、入学者選抜方法等専門委員会が5回、広報・高大接続等専門委員会が2回実施された（「報告書」pp. 200-203）。各委員会の構成メンバーは、「報告書」（pp. 204-205）の通りである。これらの専門委員会の活動を通して、センターの業務が遂行されている。なお、センターの活動等に関するすべての事務は、学務部入試課が行っている。

目的：入学者選抜，入試広報，高大接続等に関する企画，立案等の業務を行うとともに，学部及び研究科で実施する入学者選抜を専門的立場から支援し，佐賀大学の教育研究の充実発展に寄与すること

業務内容：

1. 入学者選抜の制度，方法等の設計に関すること
2. 入試広報の企画，立案等に関すること
3. 高大接続，高大連携活動等の企画，立案等に関すること
4. 入学前教育の企画，立案等に関すること
5. 入学者選抜等に係る調査研究に関すること
6. その他入学者選抜に関すること

委員会名称	構成員
運営委員会	センター長，副センター長，専任教員，学部から選出された教員
企画委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，各学部から選出された教員，入試課長
入学者選抜方法等 専門委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部の入試委員，入試課長
広報・高大接続等 専門委員会	センター長，副センター長，専任教員，各学部から選出された教員，アドミッション・オフィサー，入試課長

(分析結果とその根拠)

定期的かつ必要に応じて運営委員会及び専門委員会を開催し，センターの業務を着実に実行していることから，組織運営が十分に行われていると判断できる。